

60周年事業計画

一人と動物と環境の絆をつくる動物園・入園者 100 万人を目指して一

★ 基本的な考え方

平成 20 年度に策定した円山動物園基本計画では、開園 60 周年を迎える平成 23 年度は「集中取組期間の最終年」と位置付けられている。このことから、60 周年事業を「集中取組期間の総括」と「次のステップへの基礎固め」の事業と位置付け、「存在意義を高める」、「特徴づけを際立たせる」、「集客施設としての実力を高める」それぞれの視点の事業を実施し、円山動物園が次に目指す方向性へと繋げていく。

円山動物園の存在意義を高める事業

北海道の生物多様性保全発信事業（企業協賛事業）

生息地保全に取り組む地域団体と協働し、園内ブース設置や地域を知るイベントを、リレー開催する。円山動物園から各地域の取組を発信する「北海道の生物多様性を知るフォーラム」を開催する。

札幌の生物多様性発見・発信事業

環境教育として、大学との連携により都市の生物多様性を実感できる観察会や生物調査などの体験プログラムを実施するとともに、その結果についての情報発信や連続講演を実施し、環境への関心をより高める。

種の保存に向けた繁殖機能の充実

動物に関する国際的なデータバンク「国際種情報システム機構(ISIS)」に新たに加入するなどにより、海外動物園との交流推進や動物交換を進め、積極的に種の保存機能を果たしていく。

平成 23 年 4 月 23 日「新は虫類・両生類館」のオープン

希少動物の展示・繁殖を通じて生物多様性の重要性を表現する「は虫類・両生類館」の展示を魅力高いものにする。オープン記念講演や、は虫類・両生類の魅力を知る「アート展」を秋に開催する。

日本動物園水族館協会全国会議の開催

全国の動物園技術者が一同に集い、動物の飼育・繁殖・展示等についての研究成果の発表等を行う「第 59 回動物園技術者研究会」を秋篠宮文仁親王殿下のご臨席のもと、10 月 5 日～7 日の日程で開催する。開催を契機にサイン看板の更新を進めるとともに、開催を記念した動物の展示も検討する。

円山動物園を特徴づけ際立たせる事業

動物園の森・緑の観察会の実施、さけ科学館との連携事業の実施

円山地域を取り巻く自然環境や水棲生物等を題材に、広く生物多様性確保の基地を実現する。

円山動物園が取り組む各種事業を説明するパンフレット等の作成

環境・生物多様性・絶滅危惧種への取組、イベント、動物展示等の事業説明パンフレットを整備

円山エリアの中核施設としての発信と研究

動物園に至る交通アクセス課題の改善を含め、関係機関と連携し円山公園エリア全体の魅力向上のため研究を継続するとともに情報の発信に努める。

動物の魅力を深く伝える取組み及び教育普及の充実強化

みんなのドキドキ体験メニューの充実・入園者閲覧用図書の新規購入及び更新

アニマルファミリー制度の拡充

持続可能で支援しやすい制度へ移行し、合せて対象動物の拡充、ファミリーの増大を図る。

集客施設としての実力を高める事業

おもてなし事業の実施

来場者への魅力アップとして「おもてなし」のサービスを充実し、より客層を広げ、リピート率を上げ、集客を確保する。

- ① 園内案内表示、パンフレット、園内放送等の充実（外国語対応も含む）
- ② 季節感のある園内装飾等の実施。（6 月から実施予定）
- ③ 「春まつり」を 4/29～5/8 まで実施。来園者数 77,706 人
「かがやく夏の動物園」、「命の感謝祭」など季節ごとのイベントの充実
- ④ 冬の動物園を広く知ってもらうため動物園スノーフェスティバルの強化
平成 23 年 2/7～2/13 まで実施。来園数 31,728 人。平成 24 年も実施予定
- ⑤ 西門前に無料休憩場「オフィシャルステーション」をオープン（4 月）。来場者休憩場所の充実を図った。
- ⑥ 「開園 60 周年スペシャルツアー」を実施（6 月～10 月）。町内会・自治会の関係者に来園してもらい、将来の集客増の確保を図る。

サポート制度の充実

現在の「動物園ガイドボランティア」を核とし、市民等が各種業務をサポートする制度を構築する。

連携事業の推進

連携事業の推進

企業・団体等との連携に基づく各種事業を積極的に実施する。

- ① 劇団四季と連携し、PR 及びにぎわいを園内に創出
- ② NTT 東日本の技術協力の下、駅前地下歩行空間北 2 条広場において、「円山動物園 春の動物映像展」を開催（3D ライブ映像・トークショー等）

概念図

基本構想の概念図

